

日本のこれから

大分県立大分豊府中学校3年 小川 茉莉愛

八月八日、宮崎県で震度六弱の地震が発生し、気象庁から初の「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発令された。これにより、人々は地震への関心が大きく高まった。私も地震について詳しく知りたくなり、「地震と税金」について調べてみた。

皆さんは「復興特別所得税」というのを知っているだろうか。これは二〇三七年までの間、東日本大震災の復興のために必要なお金を、自分の所得税に上乗せして二.一%納税するというものだ。私は税が震災の復興に役立っているということを初めて知った。私は税金に対してマイナスなイメージが大きかったが、日本人は復興のためにみんなで納税をして、税金によっていろんな人が助けられていると知って、税金はいいものだと思った。

そんな日本の税金だが、実は今のままでは全然お金が足りていないということも分かった。「国債費」は、簡単に言えば国の借金である。国の借金は今の若い人たちが負担し、税金によって少しずつ返していかなければならないお金だ。この借金の残高は、今年で一〇五兆円になると見込まれている。

もし、南海トラフが起きたらどうになってしまうのだろうか。人々の生活に必要な不可欠である、電気、水道、ガスなどのインフラは全て止まり、道路は断層や液状化などで割れたり、水浸しになる。また、建物は崩壊して、最悪の場合火事や津波に巻き込まれるかもしれない。そして、日本の経済を支えている太平洋ベルトが、大きな被害にあってしまう。これらを復興させるにはたくさんのお金が必要になり、予想被害額は一四〇兆円にのぼるとされている。この額は、日本の借金の額を上回り、日本の歳出の約十二倍、日本の国内総生産の約二倍である。私はこの額の大きさを知って驚き、とても危機感を持った。日本は借金が多いにも関わらず、地震によってたくさんの被害が出ると、日本の財政はお金がなくて詰んでしまうかもしれないと考えたからだ。

そんな最悪な事態から逃れるにはどうしたらいいのか。私は日本がまだ地震が来ないうちに、「南海トラフ地震対策税」をつくり、「復興特別所得税」のように人々から少しずつ納税してもらいたいと考える。未来へのお金を備蓄して、将来の日本が地震によって財政難にならないように。被害にあった人が安心して生活できるようにするために。

税金は多くの方が、「払うのが嫌」「負担が大きい」と考えるだろう。しかし、私たちの生活は税によって支えられており、私たちがこれからの将来、安心して生活するために税は、必要不可欠なものだと思える。国の借金を返すことも、これから起こるかもしれない災害のことも、将来を担う私たちには他人事では済まされないことである。私は税金の理解を深め、日本のこれからのことを考えていくことが大切だと思えた。